

◆平成25年度 地域とともにある学校づくり推進フォーラム(栃木会場)

パネルディスカッション・テーマ

地域とともにある学校づくり ～目指すべき学校運営の在り方～



秋津小学校校庭での秋津コミュニティ主催の
防災被災訓練を兼ねた一泊キャンプ
での棒パンづくり

幼稚園併設の千葉県習志野市立秋津小学校(児童数340人)は、1980年に東京湾の埋立地に秋津のまち(人口7,400人)とともに誕生。
まだ33年のまちですが「子縁(こえん)」を介して「だれでもが集い学ぶ学校と地域」にしてきました。

2013年10月11日

宇都宮市文化会館

岸 裕司

(株)パンゲア 代表取締役

秋津コミュニティ顧問

学校と地域の融合教育研究会副会長

埼玉大学・日本大学非常勤講師

文部科学省コミュニティ・スクールマイスター

秋津の「地域とともにある学校」づくりの**現在**と**課題**

・学校の授業や行事に年間2万人の住民参画

⇒学社融合による各種の学習・安全・遊び・情報(HP作成など)の協働

・学校運営に保護者や住民参画

⇒千葉県初のコミュニティ・スクール(学校運営協議会)

地縁や血縁の崩壊から秋津は「子縁」を理念に学校と地域をつなぐ

・学校・関係者評価を毎年実施しHPで公開

⇒PDCAサイクルの常態化 = PCAが学校運営協議会 + Dが学社融合で実施

・余裕教室・花壇・陶芸窯を地域開放 = 1.3万人利用

⇒子ども教室ほか40サークルが集い学ぶ、鍵も住民自治で管理貸し出す運営

⇒学校を拠点としたスクール・コミュニティ(生涯学習と福祉コミュニティ)の実現

・総合型地域スポーツクラブも住民自治で運営

⇒学校体育から多世代交流を図る社会体育へ移行し、先生の休日保障へ

・災害時の避難所学校

⇒コミュニティルームが3.11東日本大震災の際に住民自治で避難所運営

・課題:「2つの古い」問題 高齡化、団地の老朽化

⇒子育てしやすいまちと学校づくりをいっそう推進し、ソーシャルキャピタルを高めU・Iターンする若者家族を増やし、サスティナブルタウン秋津にする

融合の発想を活かした3つの秋津実践 = 小学校を拠点にした生涯学習と福祉のまち育て

① 授業を住民と協働 年間延べ2万人参画

秋津小では**人間だいすきふれあい活動**と呼び、**50~105時間**を学年に応じて各教科や行事に充当

◆ **コミュニティ・スクール**に千葉県最初に指定される

◆ 文部科学省施策「**学校支援地域本部事業**」のモデル

秋津実践



秋津の伝統「ばか面(めん)踊り」を秋津まつりで(3年生)



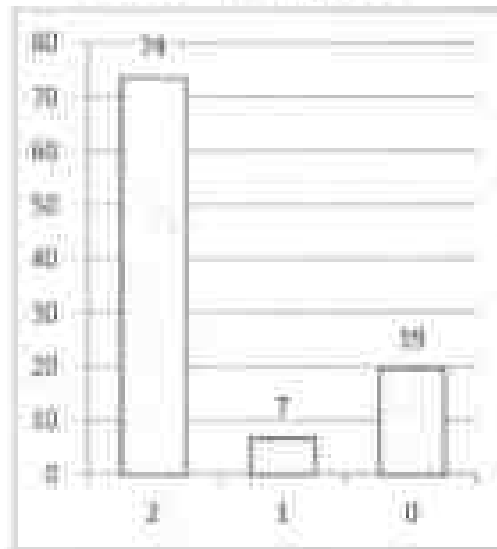
秋津まつりは授業の一環(全学年)

秋津小の学校評価から(2011年度末)

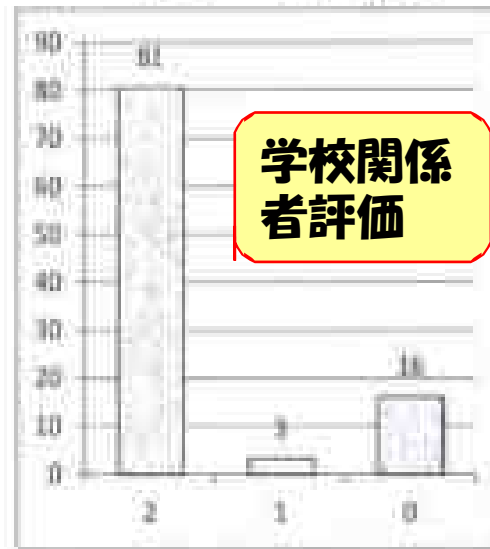
学社融合 = 学校教育と社会教育による秋津の成果

質問項目13 学校は、保護者や地域と積極的に連携し子どものよりよい成長のために努力している

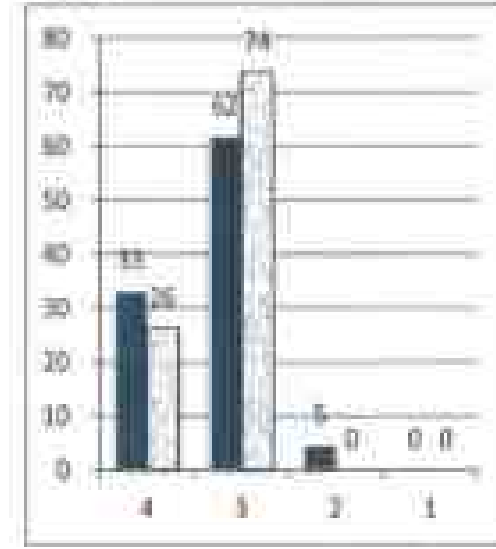
保護者 (3学期のみ)



地域 (3学期のみ)



教職員



□保護者・地域・教職員・・・良好

教職員は子どもに集中！

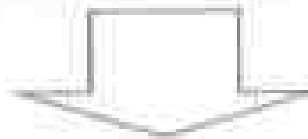
秋津小学校は「コミュニティスクール」として、これまで保護者及びPTAの組織、地域の方と連携し様々な幅広い支援を地域の方々から受け、子どもたちは通常の学校ではできない体験をしたり、学習支援を受けることができています。行事の際の安全支援や情報発信の支援、環境美化の支援など教職員も大いに助かっています。その分、教職員は子供に目を向けることができた。教職員のアンケート結果も「努力している」が去年より増加している。

学校運営について学校運営協議会・パートナー会議で学校の考えを伝え、協議し、ともに協力し合ってきている。また新々で学校として支援が必要なことを地域に伝え協力していただいている。特に今年度は地震、放射能、感染症といった危機から子どもたちを守るための危機管理・安全管理の徹底とこれまでの安全教育を見直し改訂してきたが、このことについてもご意見を頂き「大地震・津波マニュアル」を策定することができた。協議内容は子どものよりよい成長を願って行っており、学校長の学校運営の助けとなっている。今後とも継続していきたい。

秋津小の学校評価から(2012年度末)

「知」(学力の維持・向上) → 学力テストが、平均点かそれ以上か
 「徳」(心の教育の推進) → 「いじめ0・不登校0」を保持できているか
 「体」(健康・体力の増進) → 「千葉県運動能力証」の受賞者数の増

「知」(学力の維持・向上) の評価



平成24年度 学力テスト平均点

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	本校	86.0	90.0	80.2	71.1	75.1	79.6
	全国	81.4	84.7	70.8	69.4	72.1	77.1
算数	本校	88.3	79.7	80.0	△66.9	78.3	74.3
	全国	85.8	76.4	74.2	67.4	69.4	68.9

4年の算数だけが△0.5ポ

1、2、3、5、6年は、
学力テストの平均点が全国平均を上まわりました。

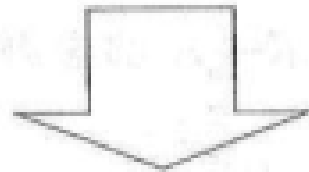
4年は、ほぼ平均点をとることができました。

注: 以前との比較ではない

秋津小の学校評価から(2012年度末)

「徳」(心の教育の推進)の評価

各学期に行ったアンケートから分かったトラブルについてはすべて解決しました。また、2月末日の時点で、30日以上欠席した児童は見られません。



年度当初の目標を連続達成!

2月末日の時点で、
「いじめ0・不登校0」を維持することができています。

- ・「**学校評価**」はH19年の「**学校教育法及び同施行規則**」の改定により義務化、「**学校関係者評価**」は努力義務となった。
- ・そのことにより学校が**目標や計画(Plan)**を立て、**実行(Do=地域と協働)**、**結果を評価(Check)**し、**改善(Action)**する「**PDCAサイクル**」の循環が求められるようになった。

秋津小の学校評価から(2012年度末)

「体」(健康・体力の増進) の評価

千葉県新体力テスト校内記録更新年(★:本年度記録を更新した種目)

※表の見方 例えば、4年女子「握力」は、平成17年度に記録を更新して以来新記録は出ていなかったが、今年度新記録が生まれたという意味です。人数の記載がある項目は、複数の子どもが新記録を出したという意味です。

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ
1年	男子	H20	H20	H15★	H21★	H20★	H20	H15	H15
	女子	H23★(4人)	H15	H19	H17★	H23	H15	H19	H17
2年	男子	H15	H18	H19★	H21	H23	H23	H15	H18
	女子	H18	H18	H18★	H15★	H21★	H18	H15	H16
3年	男子	H18	H23	H15	H16	H19★	H23★	H18	H17★
	女子	H19★	H23	H15	H16	H19	H23	H18	H17
4年	男子	H17	H23★	H21	H18	H23	H18	H17	H15
	女子	H17★	H21★	H18	H15	H15	H15	H17	H18
5年	男子	H18★	H19★	H15★	H16	H23	H15★	H15	H18
	女子	H23★	H19	H15	H23	H21	H15★(2人)	H21	H23
6年	男子	H20	H20★	H19	H20	H18	H23	H15	H20
	女子	H23★	H23★	H20	H23★	H19	H23	H23	H23★

新体力テストの校内の記録を、
更新した子どもが31名に上りました。

千葉県運動能力証の受賞者
昨年の42名から、本年度は48名に増加しました。

融合の発想を活かした3つの秋津実践 小学校を拠点にした生涯学習&福祉のまち育て

教育長が管理責任者
教職員の負担なし

②校舎内施設を住民と共用・開放 秋津小学校コミュニティルーム 年間1万3千人利用(授業外)

放課後や休日も365日利用できる余裕教室4室+余裕敷地300㎡+陶芸窯

◆「地域子ども教室」も秋津コミュニティが年間240日自主運営

秋津実践

⇒鍵は51人の委員のうち15人が保管貸し出し、夜や休日の災害時も自主避難
スクール・コミュニティ 秋津コミュニティの自主運営による生涯学習学校

余裕教室の地域開放(1階4教室)



放課後コミュニティルームで民謡教室



休日にコミュニティルームでうどんづくり教室(男性の居場所)

2011.3.11の際にはコミュニティルームが実際に避難所に！

秋津実践



買い出しからお年寄りのお世話も住民自治で
学校に設置の防災倉庫の備品も利用



2011.3.11子どもらは秋津小学校体育館に避難

電車が止まり「帰宅難民」になった秋津地区で働く人々や、高層マンションから避難した秋津の住民



秋津実践

先生は体育館で子どものお世話に専念



液状化で土砂交じりの水が噴出した秋津小学校の校庭(左)。隣接の菊田川の崩壊した護岸(中)。秋津小学校が避難所であることの看板と3.11後に行政が設置した「海拔3.5mの看板(右2枚)

融合の発想を活かした3つの秋津実践

③子縁(こえん)で人と人、学校と地域をつなぐ 学校を拠点に365日生涯学習を楽しむスクール・コミュニティを実現



校庭に手づくりした
ビオトープに、
休日に集い
ザリガニ釣りを楽しむ
地域の人々

子縁(こえん)は、子を持つ親はもちろんであるが、何らかの事情で子を持たない夫婦や子や孫などもない、または同居していないお年寄りなどにも拡大させて、地域社会でさまざまな人と人をつなぐ新しい縁結びの考え方。

出典：岸裕司著『学校開放でまち育てーサステイナブルタウンをめざして』(学芸出版社、2007年)ほか

学社融合 = 学校教育と社会教育の融合による秋津の成果
幼稚園併設の秋津の子どもはどのような青年に育ったか

- ① **授業を楽しむ大人の参画者**
年間延べ2万人 主に母親と高齢者
- ② **学校施設開放 = 秋津小学校コミュニティルーム**
放課後も休日も生涯学習を楽しむ人数は
年間延べ1.3万人 休日は父親や男性が多い

< 仮説 >

秋津の児童は年間を通して多くの大人とふれあい、
さまざまな体験を通しての**コミュニケーション能力**や
自尊感情の向上といった**見えない学力**ともいいうる
生きる力が育成されているのではないか。

中学生に追跡調査 秋津小の児童は中学生になっても母校によく来る = 幼少期にふるさと意識が育成されていたからか ほかの小学校の卒業中学生との比較(2003年調査、1~3年生合計99人)

図6 習志野市立第七中中学生に聞いた小学生の時に放課後や休日に小学校へ行った1年間の平均回数(回)

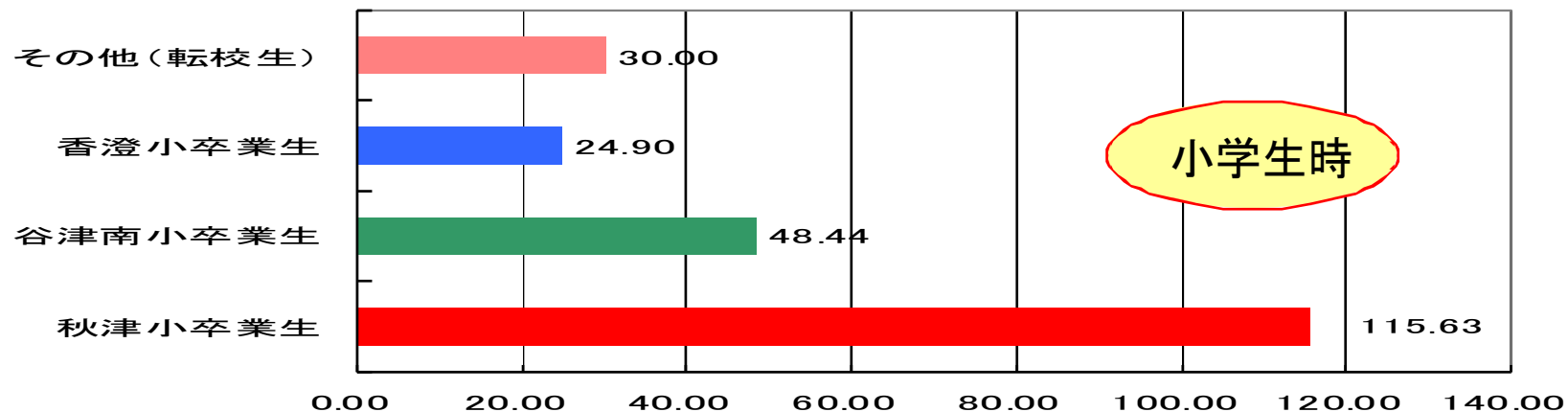
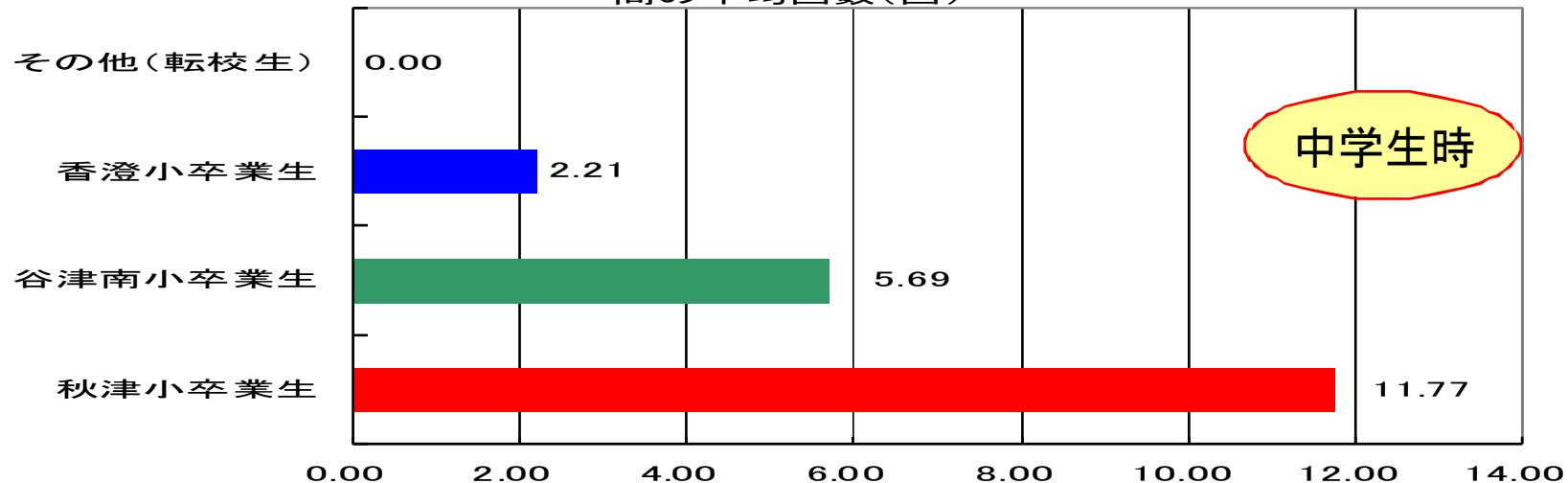


図7 同じ中学生に聞いた、放課後や休日に卒業した小学校へ行く1年間の平均回数(回)

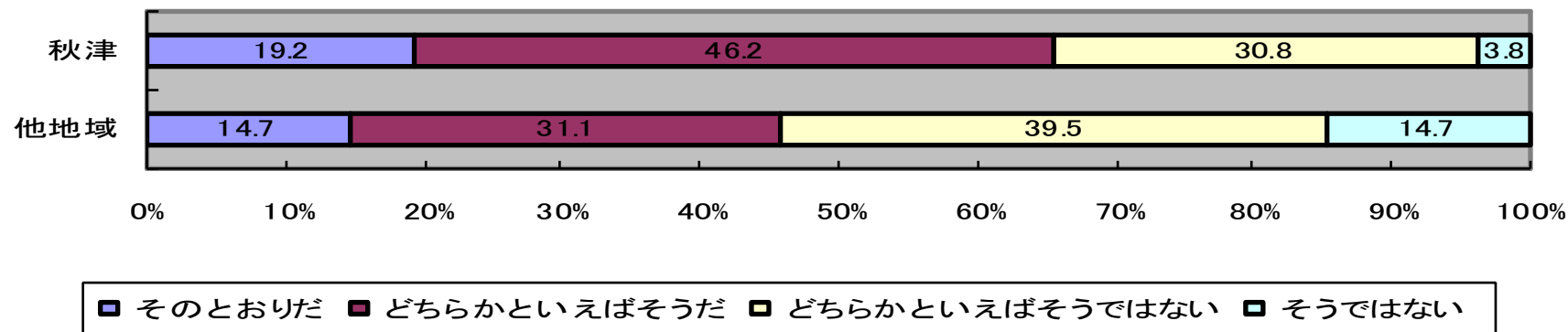


幼保小中連携は、いいじゃない!

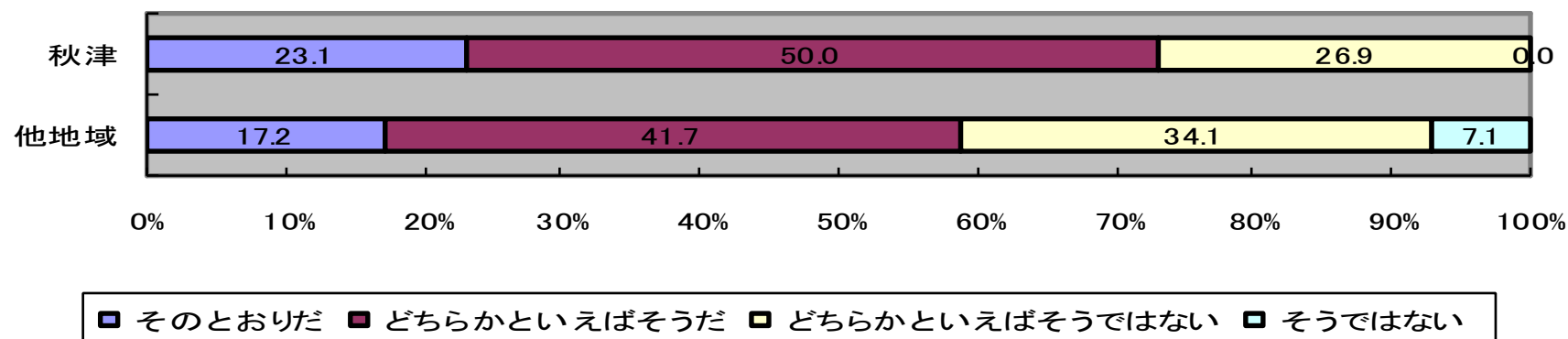
滝瀬容子『地域に開かれた学校における子どもの環境認知』2003年3月、白百合女子大学大学院生時代の修士論文より、岸が作図。

高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果 秋津小卒業生は、コミュニケーション能力が比較的高い

自分の感情や気持ちを素直に表現できる



友だちが話しているところに気軽に参加できる

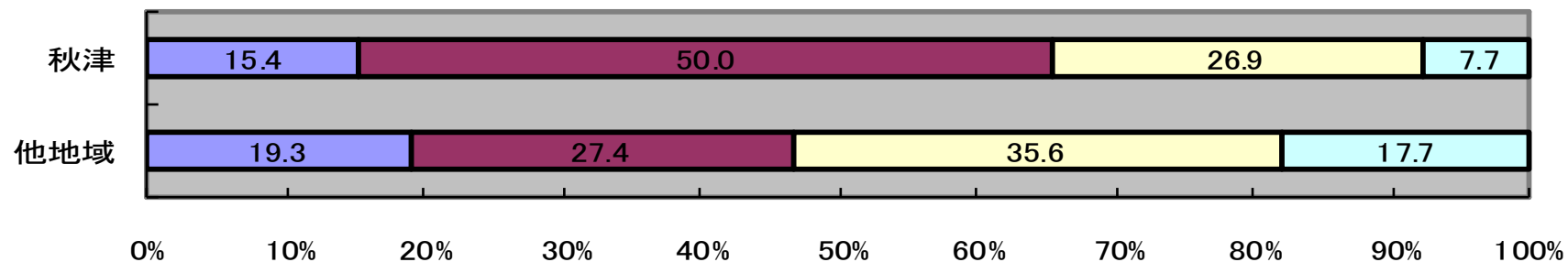


秋津小卒業高校生男子で調査時に秋津在住の26人とほかの地域(横浜市・川崎市・福岡県小郡市)の高校生男子370人との傾向の比較。2006年12月～7年1月調査。川崎末美東洋英和女学院大学人間科学部教授の調査レポート『共生型集住の可能性—家族・コミュニティ・地域・環境の視点から—学校を基地にした多元的共生空間』2007年3月3日「国立民族学博物館・多元的共生空間の創成に関する共同研究会」での報告書より。※以下のデータも同様。

高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果

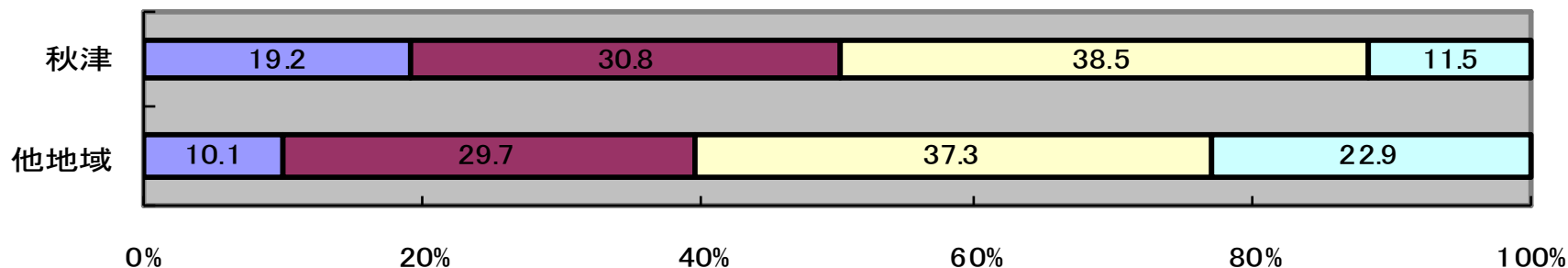
秋津小卒業生は、自尊心が比較的高い

自分にはどこか優れたものがある



■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそうだ ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない

今の自分が好きだ

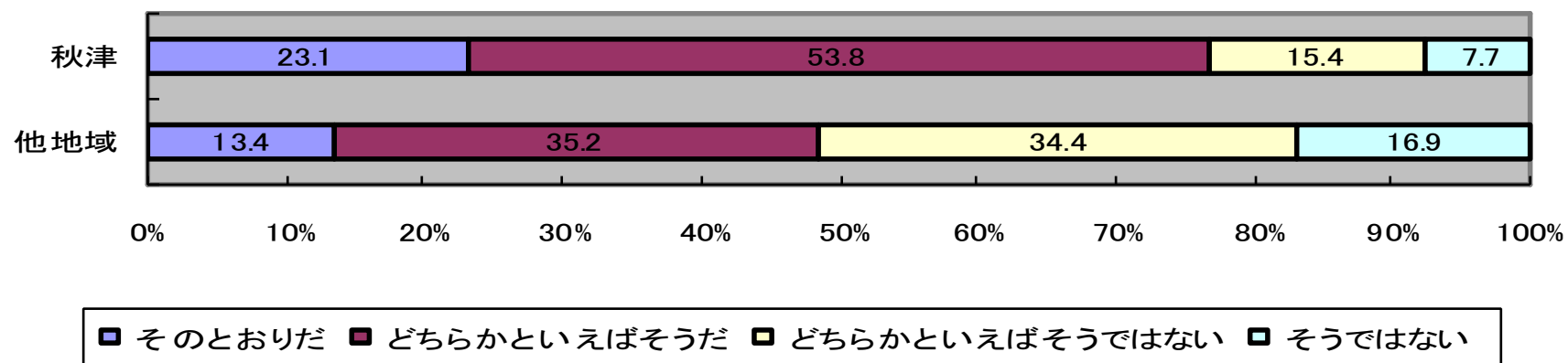


■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそうだ ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない

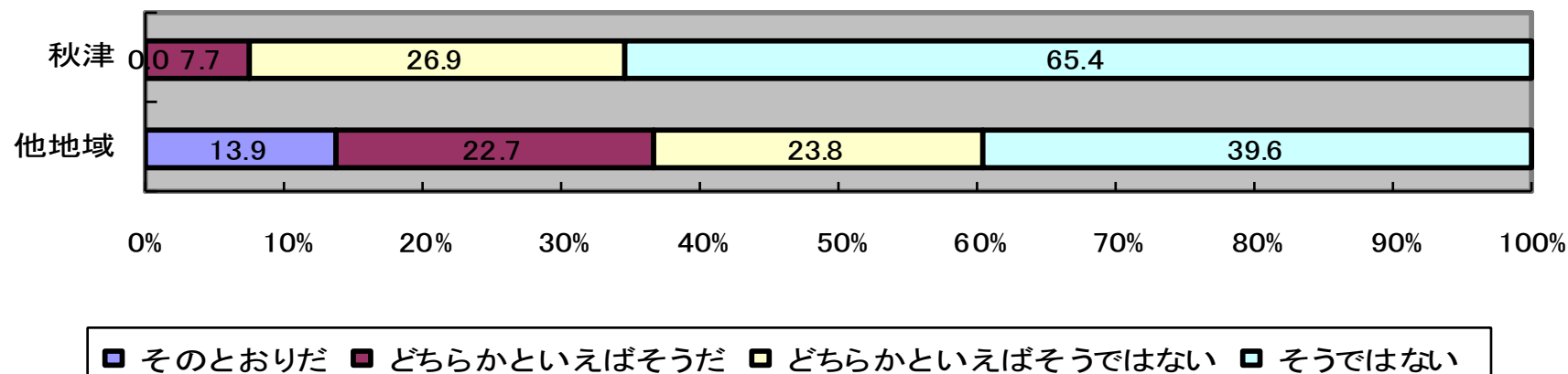
高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果

秋津小卒業生は、高校生活によく適応している

学校の行事には積極的に参加している



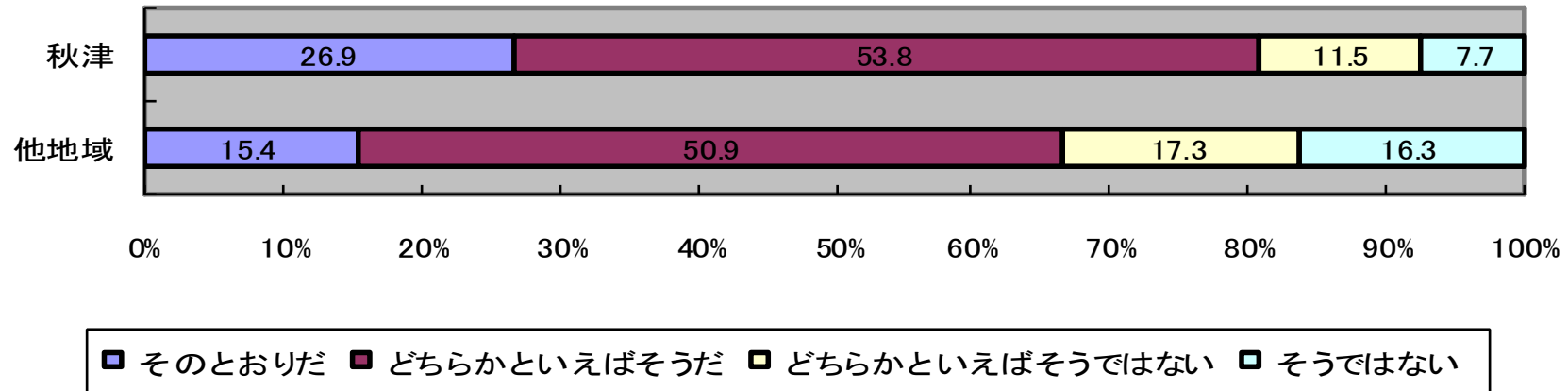
学校をやめたいと思うことがある



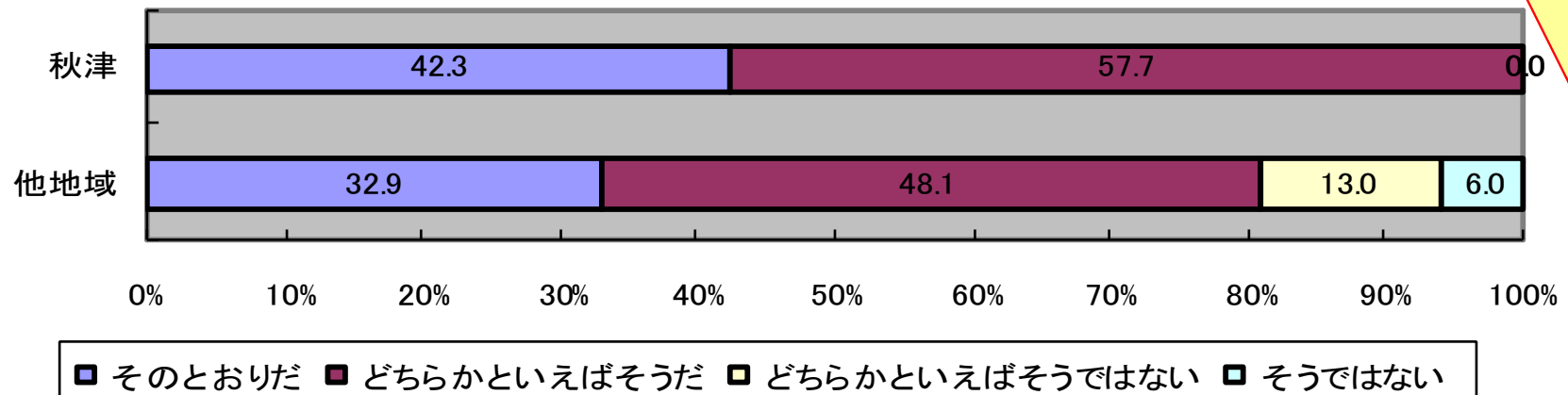
高校生に追跡調査 総合的な「生きる力」の効果

親が子どもの考えを尊重し、子どもは親を信頼している

お父さんは、私の考えや話をよくきいてくれる



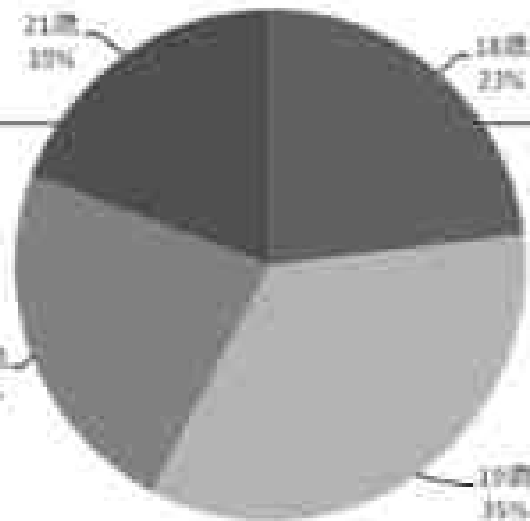
お母さんは、信頼できる人だ



母親の安定感や父親の学校や地域参画が多いからか？

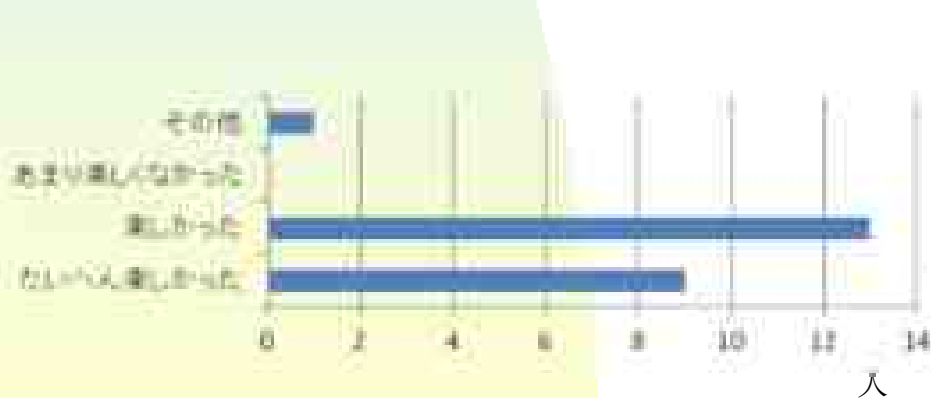
校庭が育む地域と子ども - 学校敷地におけるまちづくりと環境学習の融合 -

秋津小学校での実践と検討 ※成人した卒業生に追跡調査

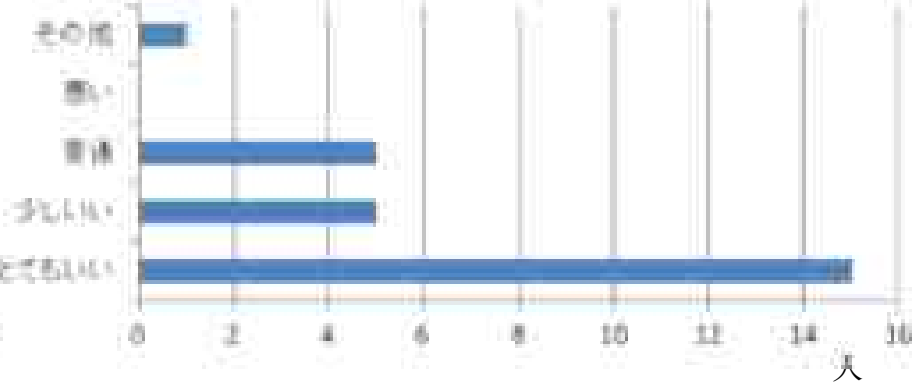


ビオトープづくりをリードした
榎重善さんの修士論文より

回答者の年齢(作業当時3~5年生)、回答は成人した26名(男性16、女性10)



作業体験の記憶



居住地域の居心地

出典: 榎 重善(2010年度放送大学大学院文化科学研究科社会経営科学プログラム修士論文
「校庭が育む地域と子ども—学校敷地におけるまちづくりと環境学習の融合—」

校庭が育む地域と子ども - 学校敷地におけるまちづくりと環境学習の融合 -

秋津小学校での実践と検討 ※卒業生に追跡調査

アンケート調査での自由記述 (赤字と傍線は岸)

ビオトープづくりをリードした
槇重善さんの修士論文より

私は秋津小学校の卒業生であることをとても誇りに思っています。子どもの頃からたくさんの人との関わりの中で私は成長してきました。子どもの頃のそのような体験は、今の私の人生に大きく影響を与えています。地域の人に支えられて大人になり、私も、誰かのために力を貸したいと思います。

秋津小の校庭は地域の人々の協力があってこそのもので、休みの日などに地域の人々が学校へ通う姿をよく目にしていました。次は私もそちら側として、校庭を改造する計画に参加してみたいです。

(女性、20歳)

以上の秋津での追跡調査結果から、

幼少期からの開かれた学校・開かれた地域での子育てのあり方から開かれた家庭に自然になり、子どもらはふるさと意識が育成され、中高校生から成人しても明るく前向きに生きる力が持続されるのだろうと推察できる。

つまり、不登校やいじめなどのさまざまな問題を先送りにしない「三つ子の魂百までも」を可能にしまた家庭も開かれることで児童虐待なども起こりにくい地域になるのではないかと、まだ仮説であると思われる。

子どもは、学校の授業だけではなく体験の総時間で生きる力が育成されるのではないか？

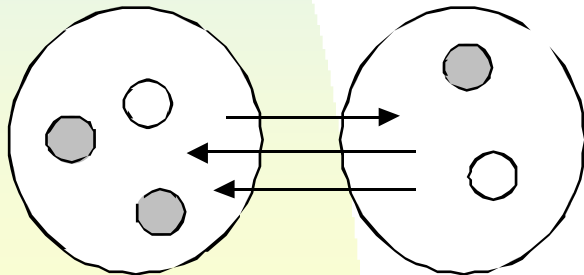
実践は「融合の発想 = Win & Win」で！

【融合の発想】関わりあう2人以上や機関同士が、主体者A・B双方の目指す目的を同時に果たし、ときにはCという新しい価値をも生むように、はじめから意図して、あることを仕組む発想法。

融合は双方にメリットを生む手法

- ◆ 連携と融合は似て異なるもの。使い分けが大切◆
連携をいくら積んでも融合にはならない

【 連携 = Give & Take 】

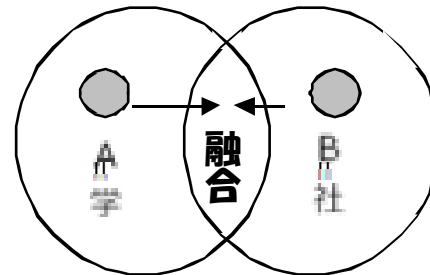


|| 「連携」は重ならない

物的・人的な資産の交換の状態

※ 交換バランスが一方に偏りがちで長続きしにくい

【 融合 = Win & Win 】



|| 「融合」は意図的に重ねる

物的・人的な資産の共有や協働の状態

※ はじめから双方のメリットを仕組むので長続きする

コミュニティ・スクールの先に目指すのは、
学校を拠点とした生涯学習と福祉コミュニティ
=**スクール・コミュニティ**創成の究極の目的

目的①誰でもが、いつでもどこでも学べる、生涯学習のまち
育てに寄与する学校と地域をつくる

目的②誰でもが、安心して安全に学び働き暮らせる、ノーマラ
イゼーションのまち育てに寄与する学校と地域をつくる

⇒教師にとっても働きやすい職場

例)子育てサークルがコミュニティルームで教師の乳幼児の面倒を見、休み時間
に授乳する。何かあれば校医に診てもらう

手法は、「融合の発想(学社融合)」を適用し、学校づくり・ま
ち育て・子育てを三位一体で推進すること



秋津の標語：少子化時代の大家族、学校と地域で育てる秋津っ子

秋津菌に感染したかな？
(危ない菌ではありません。念のため)



コミュニティ・スクールから
スクール・コミュニティ
を推進する校門の看板

地域とともにある学校づくり～目指すべき学校運営の在り方～ でした。
ありがとうございました！